



幼児・児童の
交流・学校体験

保育園と小学校の交流

南保育園と大平小学校 令和5年

👉 1 秋探しを一緒に → 2 おもちゃ作り → 3 秋のおもちゃ屋さんに招待



→ 4 自分たちもどんぐりころころを作ってあそびたい(園での遊びへ)





【教師の指導・援助及び子供の学びの変化】

①教師の指導・援助の変化

【幼稚園、保育所、認定こども園】

- 教師は出すぎないで、わくわく感や楽しさを味わわせるために、環境の構成の大切さや重要性に気付いた。
- 子供の声に耳を傾けること、また、やってみたいことをかなえるにはと常に考えて保育をするようになり、子供と一緒に環境づくりをするようになった。
- 子供の興味の度合いには差があることを改めて意識し、スタートは違っても環境の工夫によって子供が同じ経験ができるように、土台作りを配慮するようになった。
- Op4cを取り入れたことで子供たちの様々な考えに気付けるようになった。
- 生活や遊びの場面での子供の姿を捉え、何に気付いて、何を学ぼうとしているのか、その時に声かけが必要か、そっと見守った方がいいのかをより意識するようになった。さらに、その後に子供がどの方向へ進んでいくのかを予想したり、教師同士で話し合ったりするようになった。
- 子供の声をよく聞くことで遊びの展開が広がった。





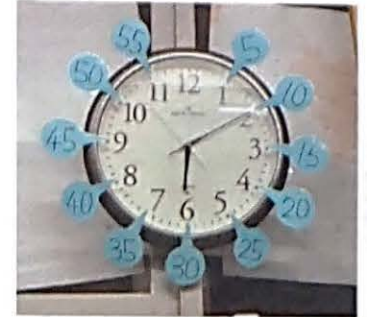
【教師の指導・援助及び子供の学びの変化】

①教師の指導・援助の変化

【小学校】

- 幼児教育施設の先生の子供への関わり方や環境の構成を学び、小学校でも子供に委ねる場面を増やしていこうと感じた。可能な限り情報やものを準備し、児童がそれぞれのタイミングで自由に使うことができるようにした。
- 子供たちの学びが自然に広がっていくような環境の構成を工夫するよう意識した。図画工作科や生活科で使える素材を家庭に依頼し、ストックしたものを見えるようにした。
- 幼児教育の遊びの経験を知ったことにより、経験を共有しながら経験と関連付けて考えさせるように授業を組み立てるようになった。特に、生活科では、「園ではこうしていた」、「こんなことをしたよ」という声をつなぎ、活動に生かすよう工夫するようになった。
- 幼児教育で行われている「ドキュメンテーション」を取り入れた。学習環境整備の一つとして児童がいつも見ることができるようにした。
 - ・次の活動の確認ができたり、活動の足跡を残すことで振り返りや学年間のつながりを生んだりすることにつながった。
 - ・児童の気付いたことやつぶやきを記録することで、新たな気付きを生むことにつながった。

★学習活動につながるものの提示★



入学した時からこの時計を教室に置いている。
「長い針が6までね。」などと声を掛けていたが、「長い針が6ってことは、30分ってことでしょ。」「半っても言うよ。」など、園やこれまでの経験を子供たち同士で話す姿が見られた。



【教師の指導・援助及び子供の学びの変化】

②子供の学びの変化

【認定こども園・幼稚園、保育園】

○与えられるものだけではなく、いろいろな発想で遊びができるようになり遊びが広がってきた。アプローチ期のカリキュラムから様々な活動に興味をもって取り組んでいる。個人差はあるが、いろいろ感じたり、考えたり、表現したりと成長が見られる。

○小学校との交流会から特に小学校への就学を意識し始めた。自分でやってみよう、きっとできると進んで活動に取り組むようになった。

○小学校との交流が楽しみになっている。別の学校に入学する子供たちも、交流の学校に行くのが楽しみである。学校を身近に感じている。1年生になることに期待がふくらむとともに、小学生の姿からあこがれをもち、まねをしたり意識して過ごしたりする姿が出てきた。

【小学校】

○「幼保でやったことがある」という経験が小学校でも生かされるようになり、安心につながっている。

○ドキュメンテーションを活用することにより振り返りでは、それまでの活動にそった表面的なものではなく、具体的なことを振り返ることができるようになった。

○2年生は、1年前の交流活動に関する取組の様子をまとめたドキュメンテーションを見て振り返りながら、5歳児の子が楽しむことができるポイントや準備物、工夫する点を的確に1年生にアドバイスする姿が見られるようになった。





【持続可能な取組とするために】

組織体制 の継承

架け橋プログラム
理解研修会

※転入職員も含めた
共通理解の場として

一日体験研修
事後研修の充実

※ブロック以外の園、小
学校での体験を協議し
ていく

幼児・児童の交流
小学校見学会
の継続

※子供の思いを反映させる

架け橋期のカリキュラム
全体計画の更新

※より5歳児、小学校1年生の思
いを反映させる(p4cの適切な活
用)

保育参観・授業参観

・スキルアップ研修の保育
・交流活動及び事前・事後の授業
・p4cの実践

※参観の機会を提供し情報交換

「実践資料集」の作成

※園、小学校での取組を累積
し、学びの連続性の理解へ
(幼保小での活用)

カリキュラム理解研修
振り返り研修、p4c研修会
※カリキュラム更新への反映
指導者の質の向上を目指す





【持続可能な取組とするために】

各種研修・合同会議の年間計画の作成



2月に「全体計画研修・説明会」の実施

白石市架け橋期のカリキュラム研修年間計画

合同研修

園

小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
理解研修		架け橋プログラム理解研修		メディアコントロール理解研修	県幼稚園教育課程							
カリキュラム研修	スタカリ理解研修 接続カリ理解研修	振返り研修① 各園・各小学校 担当顔合わせ	振返り研修② (運営会議2部) ・スタカリ実践 事例報告		振返り研修③ (運営会議2部) ・スタカリ編集 会議	更新・作成作業	振返り研修④ (運営会議2部)		振返り研修⑤ (運営会議2部)	接続カリキュ ラム編集会議 ・アプカリ ・スタカリ	架け橋期 カリキュラム 全体計画研 修・説明会	各園・小学校 の計画へ
一日体験研修	小学校体験① 事後合同①			保育体験① 事後合同②				小学校 体験② 事後合同③		保育 体験② 事後合同④		
保育参観 授業参観 事後研修	授業参観 (体験研修日)		附属幼稚園 保育視察	保育参観 (スキルアップ 研修会)				授業参観 交流活動参観①		保育参観 (体験研 修日) 交流活動参観②		
p4c研修	一年担任 研修 1年生の声を受け止 めよう (楽しみ、友達づくり)	p4c実践公開(随時)			スタートカリ キュラムで 取り上げたい 内容		小学校就学に対する5歳児 の思いを受け止めよう (期待や不安の声)					
合同会議等・ 関連行事	架け橋運営会議 5歳児・1年生担 任等合同会議 (運営会議2部)		架け橋運営会議		架け橋運営会議		架け橋運営会議 就学時健康診断		架け橋運営会議 小学校見学会	各小学校 一日入学	幼保小引継ぎ	架け橋運営会議



【持続可能な取組とするために】各研修要項の作成

保育体験研修・小学校体験研修についての確認事項

白石市幼保小の架け橋プログラム

白石市幼保小の架け橋プログラム

1 保育体験研修 (年2回、各小学校教諭等が、各園で一日体験を行う)

目 的	7月	小学校教員が、幼稚園・保育園の保育を1日体験することにより、環境を通して行う幼児教育の内容や園児の実態等を把握することにより、スムーズな接続の在り方を考える機会とする
	1月	小学校教員が、幼稚園・保育園の保育を1日体験することにより、7月からの成長の姿を把握するとともに、次年度の入学予定園児の実態等を把握することにより、円滑な接続の一助とする
対象者	○架け橋プログラム運営会議の運営委員(7月、1月とも参加する) ○特に限定はしない(多くの小学校教員が体験研修に参加する)	
実 施 期 間	7月	7月16日～8月2日の期間(各校から2～3名)
	1月	1月の第4週～第5週の期間に(各校から2～3名)
時 間	9:00～15:30を原則とする *受け入れる園で調整を行うことは可能とする	
内 容	○保育参観、保育へ参加(各園での計画による) ○アプローチ期カリキュラムの実践参観(1月) ○園職員との話し合い・情報交換 【取り上げたい内容】 ①当日の保育について ②「環境の構成」の工夫について ③主体的、協同的な遊びを引き出す援助・支援について ④子供の姿について(育っている姿から) ⑤接続に向けた情報交換	
留意点	・園の活動で、大切にしている視点を話してもらい体験にのぞむ ・アプローチ期のカリキュラムに関連する活動を保育に設定する。(1月)	
研修報告書	・各小学校からの参加者は研修報告書を作成し、「校務系共有フォルダ」に保存する 「校務系共有フォルダ」→ 共有 → 幼保小架け橋プログラム → 研修へ保存	

2 小学校体験研修 (年2回、各園保育士・教諭等が、各小学校で一日体験を行う)

目 的	4月	幼稚園、保育園の担当者が、卒園児の小学校での生活の様子を参観・支援を体験し、小学校教育の内容や小学校1年生の実態を把握することにより、その後の保育の参考とする。入学後、安心して自己発揮できるような環境の構成について情報提供を行う。
	11月	幼稚園、保育園の担当者が、卒園児の小学校での成長の姿や生活科等の授業を参観・支援し、架け橋期のカリキュラムや今後の交流のねらいや流れ等について小学校教員と情報交換を行う機会とする。
対象者	○主として5歳児の担任等 ○小学校体験研修を希望する者(前年度5歳児の担任等がいる場合は、対象とする)	
実 施 期 間	4月	4月の第4週の期間に(各園から1～2名)
	11月	11月の第4週～第5週の期間に(各園から1～2名)
時 間	8:10～14:40を原則とする *受け入れる小学校で調整を行うことは可能とする ただし、児童下校後の情報交換の時間を十分に確保できる計画とする	
内 容	○授業参観、読み聞かせや手遊び等のTTによる活動 ○スタートカリキュラムの実践参観(4月) ○生活科の授業参観(11月) ○探究の対話(p4c)を取り入れた授業 ○小学校職員との話し合い・情報交換 【取り上げたい内容】 ①スタートカリキュラムや生活科の授業について ②子供の姿について(育っている力なども) ③小学校での環境の構成について ④接続期に意識していることについて ⑤交流活動前後の子供の様子について	
留意点	・研修日の前までに、週案等当日の指導計画を体験者(園)に配布する ・読み聞かせや手遊びなどをTTで担当してもらう時間を設定する ・時間割に1時間は生活科の授業を設定する	
研修報告書	・各園からの参加者は研修報告書を作成し、「校務系共有フォルダ」に保存する 「校務系共有フォルダ」→ 共有 → 幼保小架け橋プログラム → 研修へ保存	

3 体験研修実施後の合同研修会 (年4回、ブロックごとに体験研修の話し合いを行う)

目 的	4月	・各園、各小学校の関係者で顔合わせの機会とする ○小学校1年生の姿について互いに率直に思いを話し合う ○スタートカリキュラムについて、共有しておきたいことを話し合う ○次回の小学校体験(11月)に向けての希望や改善点等について確認する
	7月	○主として5歳児の姿について、遊びを通しての総合的な指導について、育っている姿についてなど、互いに率直に思いを話し合う ○アプローチ期のカリキュラムについて、共有しておきたいことを話し合う ○次回の保育体験(11月)に向けての希望や改善点等について確認する
	11月	○入学から半年以上経過した1年生の学びの姿、育っている力について話題とする ○幼児教育での学び(経験)が、生活科を中心に学びにつながっていると感じたことを話題とする ○交流計画や進め方について情報提供、交換を行う
	1月	○7月からの成長の姿を話題とする ○交流活動を通して互いに感じていることを話題とする(交流後の子供の姿や活動) ○入学に向けての園での取組や小学校への思いを話し合う
対象者	○各園・各小学校体験研修の参加者 ○受け入れ園・受け入れ小学校の担当者、受け入れたクラス(組)の担任 ○各ブロック長及びブロック長以外の小学校からは、校長または教頭 ○園長、校長が推薦する者	
実 施 期 日	○ブロック内の受け入れ先で体験研修が全て終了してから行う (ただし、感染症等により実施を延期した場合は、それを待たずに開催する) *3ブロック間で、あまり開きがないように調整する ○開催日、時間、会場については、ブロック長の小学校で調整する	
内 容	①受け入れ園・小学校で事後に話し合った内容について(子供の姿も含む) ②「環境の構成」の工夫と援助、教師の関わりについて ③受け入れ校・受け入れ園から子供の姿、保育士・教師等の変容について ④今後の体験研修に向けての希望など ⑤架け橋期の全体カリキュラムについて(改善したい項目、内容など)	
留意点	・各ブロックで話題となった内容はブロックごとにまとめ、データを「校務系共有フォルダ」に保存する(架け橋プログラム運営会議の際の資料とする) 「校務系共有フォルダ」→ 共有 → 幼保小架け橋プログラム → 研修へ保存	

研修日設定等の流れ	①園が、担当小学校と期日を調整し、研修日を決定する(*研修日の1週間前まで) ②各園は、大平小学校(研修担当事務局校)へ、実施日・参加者を報告する(様式あり) ③各園は、担当小学校へ、研修当日の流れ(日案などの写し等)を送付する
研修連携園小学校	◇受入れ園 Aブロック ◇認定こども園ひかり幼稚園・白石一小・小原小 ◇認可保育所あそびの森・白石一小 ※白石一小は2(3)園に参加 ◇大鷹沢保育園・大鷹沢小 ◇白川保育園・白川小 Bブロック ◇第二幼稚園・白石二小・(白石一小) ※白石二小は3園に参加 ◇白石はるかぜ保育園・白石二小 ◇南保育園・白石二小・大平小 ◇越河保育園・越河小 ◇北保育園・福岡小 Cブロック ◇白石みのり保育園・深谷小

研修日設定等の流れ	①小学校が、担当園と期日を調整し、研修日を決定する(*研修日の1週間前まで) ②各小学校は、大平小学校(研修担当事務局校)へ、実施日・参加者を報告する(様式あり) ③各小学校は、担当園へ、研修当日の流れ(週案の写し等)を送付する ④各小学校は、参加者分の給食数を増やす(給食費は当日集金)
研修連携園小学校	◇受入れ小学校 Aブロック ◇白石一小・認定こども園ひかり幼稚園・認可保育所あそびの森 ◇大鷹沢小・大鷹沢保育園 ◇白川小・白川保育園 Bブロック ◇白石二小・第二幼稚園・白石はるかぜ保育園 ◇大平小・南保育園 ◇越河小・越河保育園 Cブロック ◇福岡小・北保育園 ◇深谷小・白石みのり保育園

研修日設定等の流れ	①ブロック長となっている小学校が、期日、会場を調整し、合同研修日を決定する ②各ブロック長は、大平小学校(研修担当事務局校)へ開催期日を報告する
Aブロック	認定こども園ひかり幼稚園 認可保育所あそびの森 大鷹沢保育園 白川保育園 ※白川小学校(ブロック長) 白石第一小学校 大鷹沢小学校 *東中学校
Bブロック	第二幼稚園 白石はるかぜ保育園 南保育園 越河保育園 ※越河小学校(ブロック長) 白石第二小学校 大平小学校 小原小学校 *白石中学校 *小原中学校
Cブロック	白石みのり保育園 北保育園 ※深谷小学校(ブロック長) 福岡小学校 *福岡中学校

【次年度への展開】

- ◇ 市単独で、架け橋プログラムの取組を継続する
(予算化:開発会議・講演費、視察研修費、オンラインの整備費等)
- ◇ 今年度の体制、運営会議を継続し、カリキュラムの検討、改善、更新を行っていく
- ◇ 研修年間計画により、理解研修、カリキュラム研修、一日体験研修、保育参観・授業参観、p4c研修を継続し、保育及び授業の質を高め合う



令和4～6年度 幼保小の架け橋プログラム事業 成果報告会

令和7年2月10日



宮城県白石市教育委員会